

## ■ 議題

---

今回の審議委員会は、4月30日（日）に行われた『高山祭 屋台の総曳き揃え』の「現場からのレポート」、『ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス』より5月22日（月）の「オープニングトーク」、6月11日（日）に行われた『第6回飛騨高山ウルトラマラソン』の「現場からのレポート」、さらに6月25日（日）の『ヒッツ・サンデー・チャンネル』の番組スタート直後に発生した「地震への対応について」を聴いて審議に入った。

## ■ 審議内容

---

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

原委員： 「屋台の総曳き揃え」のレポートは、機材の調子が悪いということでしたが、これは事前に分からなかったのか？

会社側： 正直、分かっていなかったと思う。インタビューし始めてからノイズが入っていると分かった。予兆のようなものは少しあったが、たまにしか（その機材を）使わないということもあり、様子をみながら使用していた。

原委員： 万が一ということがこれからもあると思う。いろいろな事情があるかもしれないが、ラジオを聴いているほうは、何を話しているのか分かりにくいと思う。もし、機材の調子が悪いのなら次の手を考えておくとか、「ちょっと今、機材の故障で。」と伝えて一度レポートを中断し、あらためてインタビューするなど、今後、対処方法を考えたほうが良いと思う。トラブルが起きた時の判断は難しいと思うが、やはり機材は突然壊れることもあるので、備えを常にではないが、常に次の手を考えておけば、ぱっと切り替えることも可能だと思う。

遠藤ナビゲーターの「結婚式」についてのオープニングトークは、聴取しながらヒッツFMのツイッター写真を見ていることもあり、内容が非常によく伝わってきた。遠藤ナビゲーターの声が落ち着いていたということもあるが、本当にいろいろと様子が想像できて良かった。

原委員：「ウルトラマラソン」は、たまたまこの時、井谷ナビゲーターのこのレポートを聴いていた。先程説明があったが（1位のランナーがゴールした直後に2位のランナーがゴールし、1位のランナーは他のマスコミの取材を受けていたため、2位のランナーのインタビューが先になった）その時は、なぜ1位ではなく2位の方のインタビューが先になったのか疑問に思った。私がちょうど車で出かけた時にインタビューが始まるころで、井谷ナビゲーターが「あ、もうじきです。」と言っていたので、もう車を降りようかと思ったが、最後の1位の方のインタビューまで全て聴いた。経過がリアルに伝わり、また、1位の方がゴールする時も「もうすぐゴールです！！」と、井谷ナビゲーターの声のトーンがガーッと上がって、声からも臨場感が伝わり、レポートを聴いていて「ああ本当にゴールしたんやな。」と感じた。レポートしている井谷ナビゲーターが喜んでいるだけでなく、周りの人も喜んでいるのが想像できたので、このような時は「ブワーッ」と自分を出してもらって良かったと思う。

今回の聴取には無かったが、当日、聴いた井谷ナビゲーターのレポートの中で、西高校に通う子（ゴール地点でボランティアスタッフとして参加）のお母さんがゴールした瞬間があって、そのレポートが感動的だった。現場で一緒に見ているような気持ちにさえなるくらい、まさに“生”のレポートという感じで、非常に今回はレポートを聴いていて嬉しかった。去年のレポートが悪かったわけではないが、今まで以上に嬉しいレポートだった。

もう一つ、過去に71キロに参加された方の事前インタビューがあったが、これは井谷ナビゲーターの時間だったか？

井谷ナビ： 私（井谷ナビ）だ。他に辻井ナビゲーターも事前にインタビューをして放送した。

原委員： 私はその井谷ナビゲーターの事前インタビューの放送もたまたま聴いていて、その後、その方が2連覇されたということも当日のインタビューで知った。事前にインタビューがあって、当日もその方のゴールをインタビューできるということもあるので、やはり事前のインタビューがあるのは良いことだと再確認した。

「地震」の放送は、たまたま宮ノ下ナビゲーターがいたのか？ベテラン（宮ノ下ナビ）がいて非常に良かったと思う。（今日の聴取で）もう少しいろいろとどのような対処をしたのか聴きたかった。突然の災害にも2人（宮ノ下ナビ・佐藤ナビ）が冷静に対応していて良かったと思う。

大萱委員長：「屋台の総曳き揃え」のレポートの機械の不具合は、途中で止めることもできたのではないかという意見があったが、辻井ナビゲーター（リポーター側）は機械の調子が悪いと分からないのか？

会社側：分からない。

大萱委員長：スタジオでは分かるのか？

会社側：スタジオでは分かる。

大萱委員長：それならスタジオから何か合図をしないと、辻井ナビゲーターは気付かずレポートを続けるのではないか？

会社側：その通りだ。今後、トラブルがあればフォローをしたいと思う。

大萱委員長：マイクを移動している時になるのか？

会社側： そうだ。マイクをこのように（リポーターとインタビュー相手に向けて）動かしているので…。マイクを移動している時に接触が悪くなり、ノイズが発生するのだろうと考える。機械はその後修理をした。

大萱委員長： 原委員の指摘どおり、ノイズが酷い放送を聴かされるほうも辛いと思うので、その時はスタジオ側から「ちょっと機械が調子悪いので一旦こちらから放送する」と伝えて、レポートを中断することも必要だと思う。検討して頂きたい。  
井谷ナビゲーターには、お褒めの言葉をいただいたが…。

原委員： 今日、この場に（井谷ナビゲーターが）いるから褒めたわけではない。今日ここにいても、いなくても、放送を聴いて思ったことを言った。

大萱委員長： やはり事前のインタビューがあるのは効果があるという意見なので、大変だとは思いますが積極的に行っていただきたいと思う。  
ボランティアスタッフの親が走っていたのか？

原委員： お母さんがランナーとして参加していて、ボランティアで参加していた西高校の生徒(子ども)は完走メダルを掛けるスタッフとして参加していた。子どもが親に完走メダルを掛けたら、お母さんがとても感激していた。そのシーンを聴いてとても感動した。

大萱委員長： そのような裏話もその現場に行ってみると分かることなので、ぜひ、そのような部分にも注目して取り上げていただきたい。

原委員： 今からでも、「ウルトラマラソン」のその後談として、その親子にインタビューしてみてもどうか！

田中委員： 「屋台の総曳き揃え」のレポートはやはり雑音が気になって、せっかくのレポートが残念だった。機材のことも含め、誰に声をかけて、どのような会話のやりとりをするのか、事前の打ち合わせがかなり重要になってくると感じた。

「結婚式」のオープニングトークについては、どのような経緯でヒッツFMがウェディング事業をやることになったのかという説明はあったのか？

井谷ナビ： もともとナビゲーターの遠藤が清見町のイベントの司会をしていて、そのイベントにたまたま来ていた新郎が遠藤のことを覚えていた。新郎は地元にあるパスカル清見（道の駅内のレストラン）で結婚式をあげることがを希望しており、遠藤に司会の依頼があった。ただ、これまでパスカル清見では結婚式を行った経験が無かったため、司会の他にも進行や音響演出も必要だという話になり、ヒッツFMで請け負った。

田中委員： 今、説明のあった経緯は、遠藤ナビゲーターの放送の中で出てきたか？

会社側： 遠藤の放送の中では、簡単に説明しただけで、ここまで詳しくは言っていないと思う。

田中委員： ヒッツFMがなぜ結婚式に携わるようになったのか、その経緯の説明があると聴いているほうも分かりやすかったと思う。また、新郎新婦のコメントや馴れ初めなど、今日の聴取だけではなかったかもしれない。

井谷ナビ： 当日のレポート時には、新郎新婦にインタビューをして、こういう経緯でなど言っていると思う。

会社側： ただ、レポートの時に説明をしたこともそうだが、次の日にも細かい説明があると良かったと思う。次の日の番組内にも、新郎新婦のコメントなどが入るとさらにわかりやすいと思った。今後、結婚式の運営に携わることがあったら、番組内で特集を組むなど放送と連携するようにしたいと思う。

田中委員： ヒッツFMでウェディング事業を行っていることが周知されると今後に繋がると思う。

「ウルトラマラソン」のレポートは、臨場感が伝わって本当に良かった1位の方より、2位の方のレポートが先になったことも、それは現場の状況によって判断することなので仕方がないと思う。

地震があった時、ラジオで緊急地震速報は流れたのか？

会社側： 今回は流れなかった。テレビでは流れたが、ラジオでは流れなかった。携帯電話は、揺れた後に緊急地震速報が流れたが、タイミングが遅いと思った。

田中委員： 地震に関しては、今後も余震が起きるかもしれないので、十分注意をして放送に力を入れていただきたい。

大萱委員長： ウェディング事業は、今後売り出していくのか？

会社側： 話があれば、売り出していきたい。

大萱委員長： 積極的に勧めていかないのか？

会社側： 一般的に式を挙げることのできる場所は、ナビゲーターが司会として依頼を受けることはあっても、進行に関わる機材・スタッフ等は全て揃っているため、ヒッツFMが介入するのは難しい。今回のパスカル清見のように特別な場所で、また安い予算で式を執り行いたいという場合に協力できるのかなと思う。

大萱委員長： 今後、ウェディング事業なども含め、多方面でヒッツFMが活躍してほしい。

また、意見にあったように、前回言ったから…、昨日言ったから…、一昨日言ったから…、今日も1回言ったから…と説明を省くのではなく、リスナーは常に違うということを頭に置いて放送してほしい。だらだらと説明をするのではなく、簡潔に説明をすることも大切だと思うが、気をつけてほしい。

山田委員： （田口委員の代理）私は、初めて審議委員会に出席した。レポートや地震の際の放送などを聴取し、臨機応変の対応が素晴らしいと思った。

「ウルトラマラソン」のレポートは、私もボランティアスタッフとしてビッグアリーナ（ゴール地点）にいたが、ランナーがゴールに近づくの

に合わせ、頻繁にラジオから情報が入ってきたため、スタッフ側も段取りを組むのに非常に助かった。また、ランナーとして参加していた

山田委員：（ヒッツFMの）大岩社長のレポートも聴いていたが、臨場感があって本当に良かった。

大萱委員長： 大岩社長は完走したのか？

会社側： 第五関門の清見町の公文書館手前でタイムオーバーになった。前回より距離は延びたが、結局 91km 地点ぐらいでタイムオーバーだった。

大萱委員長： 走りながらのレポートは、やはり大変なのか？

会社側： レポートすることは大変ではないが、足が動かなかった。練習不足だ。

大萱委員長： 無理のない範囲で、また来年もお願いしたい。「ウルトラマラソン」のレポートは、毎年、みなさんからいろいろな意見をいただき、毎年改善しているので、本当に臨場感溢れるレポートになっていると思う。

川原委員： 「屋台の総曳き揃え」のレポートは、やはり初めのほうは雑音がひどくて聴き取れず、またインタビューした相手もよく話す方で、会話中もどこで話を切ったら良いのか、また、話を切りたくても切れない感じが放送から伝わってきた。おそらく言葉を返すのも大変だったと思う。また、リポーターが恵比寿台の近くでえび坂の辺りにいるのは分かったが「屋台の総曳き揃え」のレポートなので、周りにどんな屋台があるとか、どの通りにどの屋台が出ているとか、どのくらいの人出があるとか、もう少しその場の様子やタイムスケジュールなどが知りたかった。

パスカル清見での「結婚式」についてのオープニングトークでは、先程、田中委員の意見にあったように、なぜパスカル清見で式を挙げようと思ったのかが一番疑問に思った。国際結婚だとか、気球に乗ったという、結婚式自体のイメージは湧いたが、なぜこのパスカル清見で結婚式を挙げることになったのかがとても知りたいと思った。また今後、ウェディング事業を行うのであれば、もう少し宣伝をしたほうが良いと思う。

「ウルトラマラソン」のレポートは、西高校のボランティアスタッフとの掛け合いがとても良かった。私もボランティアスタッフとして参加したが、ボランティアの仕事内容を聞いていたら、自分の仕事内容とずいぶん違い、同じボランティアでも仕事内容が異なることが分かった。ボランティアの仕事内容が分かると、他の市民も参加してみたいという気持ちが生まれると思うので、ボランティアのインタビューはとても良かったと思う

川原委員：「地震」の放送については、地震が起きても冷静な対応をしていて「ラジオを点けたまま少しお待ち下さい。」の言葉に私はとても安心した。また「ちょっとお待ちください。」との放送に、私は時間がかかるだろうと思っていたが、そのあと直ぐに情報を伝えていたので、とても心強く、ラジオを聴いていて良かったと思った。

大萱委員長：やはり取り上げる内容や経緯が分からないと疑問に思うという意見で、放送内容が悪いのではなくて、どうして今、この放送内容なのかという説明が必要。もしかしたら事前に説明があったのかもしれないし、経緯の説明が必要の無い内容もあるが、今回のパスカル清見での結婚式は、経緯の説明がもう少しあったら、もっと盛り上がるだろうし、みなさんのご意見のとおりだと思う。ぜひ検討してほしい。  
今日の聴取は放送の一部なので、おそらくレポート前後ではいろいろと周りの様子なども伝えていると思うが、例えば「屋台の総曳き揃え」のレポート時の辻井ナビゲーターのインタビュー相手は人選に少し問題があったと思うが、事前にお問い合わせすることなく、その場で急に出てもらえるのか？

会社側：わからないが、観光客へのインタビューは、その場で急にお問い合わせすることがある。今回の麒麟台の方は事前にお問い合わせしていたが、すでにお酒が入っており、あまり話ができなかったのではないかと思います。

大萱委員長：そのような時は途中で切り上げたほうが良いと思う。それからもう一人インタビューした京都の方は、本当に高山祭に詳しくてよかったが、レポート時間も決まっていることなので大変だと思う。今後もインタビューする際にはいろいろな相手がいると思うので、話の切り返しを上手くやってほしい。そこはナビゲーターの技量だと思うので、気をつけてほしい。

上田委員：（挾土委員の代理）みなさんの意見と同じになるが、今回の聴取では「屋台の総曳き揃え」のレポートと「ウルトラマラソン」のレポートがあって「ウルトラマラソン」のレポートは、今、どこの会場にいて、どのような天気で、気温がどのくらいなど、ヒントがたくさんあり、レポート現場が想像しやすかった。

しかし「屋台の総曳き揃え」のレポートは、突然リポーターにマイクが切り替わって、ざわざわと騒がしい中でインタビューが始まり、ラジオを聴いているだけの人には現場が想像しにくかった。今どのような場所にいるのかなど、インタビュー前に説明があると良かったと思う。また、機械の調子が悪く雑音が入ったことも気になった。

上田委員：「地震」の放送は、佐藤ナビゲーターが「今、情報収集しているのでラジオを切らずにこのままお待ちください。」と案内をしていたのはとても良かったが、今回のような地震のほかにも大雨やクマの出没など、その第一報が入った時に、さらに加えて、例えば地震が起きた際には「海を見に行かないでください。」「こちらから情報が取れます。」「テーブルの下に隠れてください。」など詳しい情報を待たなくても案内できるものがあると思うので、そのようなお知らせをすると、より良いと思う。また、停電などで高山防災ラジオの電源がコンセントから確保できず、充電池も電池切れになった場合の乾電池を使用した限定的な対応の方法などを伝えても良いと思う。

大萱委員長：地震発生に対して今回聴取した放送では「現在、揺れています。」ではなく、揺れが治まってから「地震がありました。」と言っていて、揺れに関しても高山市中心部は、確か震度4までなく、時間もあまり長くなかったと記憶している。高山市は広いので、場所によって地震の規模が異なり、例えば高根町ではすごく揺れたかもしれない。そこで、そのあたりも含め、「今、ちょっと揺れました。」ではなく、「今、揺れています。すぐに隠れてください。」と、揺れた瞬間にどのような対応を取るかというのが、私は大事だと思う。スタジオは揺れなかったのか？

会社側：スタジオのある建物自体が頑丈な造りで、それほど揺れを感じなかった。放送エリアが広いので、場所によって震度も、また個人によって揺れの感じ方もいろいろだということを考えて放送していかなければならないと思った。

大萱委員長：スタジオで揺れを感じた時は、外は強く揺れているという意識で向かうということを徹底していただければと思う。また、ナビゲーターが慌てると、リスナーも不安になるので気をつけてほしい。

志田委員：（高木委員の代理）みなさんの意見とほぼ一緒だが「屋台の総曳き揃え」のレポートはやはり雑音が気になった。また、事前に言っているのかもしれないが、ユネスコ登録を記念して初の「屋台の総曳き揃え」が行われたという説明があると良かった。また、インタビューから困惑している感じが伝わってきて、肝心の内容が頭に入ってこなかった。困っているのだなと思わせるようなインタビューは、良くないと思う。

「結婚式」についてのオープニングトークは、みんなで作り上げた温かな式の雰囲気というのがよく伝わってきて、とても素敵だと思った。聴取したオープニング以外でも大々的に取り上げたのかもしれないが、もっと詳しく知りたいと思ったリスナーが多いのではと感じた。

志田委員：「ウルトラマラソン」は、ランナーだけでなく、多くのボランティアスタッフに支えられている大会だと思うので、どのような人が、どのような働きをしているのかというボランティア内容が分かる内容でとても良かった知人から聞いた話では、ボランティアの中には3時に集合した人もいと聞いたので、そのようなボランティアスタッフの頑張りも伝えるべきだと思った。とても素晴らしいレポートだと思った。

「地震」の放送は、とても冷静な対応で、すぐに地震情報を伝えていたので、とても素晴らしいと思った。テレビやインターネットが発達していても、やはり災害の時はラジオという認識が多いと思うし、また、災害の時にはラジオの働きが大きいと感じた。

大萱委員長：停電になったらラジオしかない。本当に落ち着いた対応をしたと思ったヒッツFMは、地震の情報をどこから取っているのか？

会社側：ウェザーニューズ（気象情報会社）と契約して、天気に関する情報を取っていて、その中に地震情報もある。それと、高山市から配信されるメールからだ。

今回の地震の際、高山市からメール配信はあったが、当日は日曜日で、しかも市の危機管理課が土砂災害訓練をしていて、市からヒッツFMにメール配信以外の連絡はなかった。宮ノ下（ナビゲーター）がウェザーニューズなどから情報を得て、飛騨地域の情報を放送した。逆にヒッツFMから高山市に問い合わせをして被害状況を確認したが、その時点では特に市内で被害の情報は無いということだった。

大萱委員長：停電になると放送はどうなるのか？

会社側：直ぐに非常電源が立ち上がり、放送を続けることができる。ただ停電が長く続くと、次の手を考えなければならない。発電機を準備しているので、通常の無停電電源装置で対応できない場合は、備えている非常用発電機を使用することになる。

大萱委員長：停電したらラジオしかないと思うので、備えをお願いしたい。

蒲生委員：「屋台の総曳き揃え」のレポートは、確かに音が悪かったこともあるが、事前にインタビューする相手が決まっているのなら、リポーターがもう少し上手くフォローできたら良かったと思う。

「結婚式」のオープニングトークは、状況説明が非常に上手く、内容も分かり良かったが、みなさんの意見と同じで、なぜヒッツFMで結婚式をやっているのかという説明がほしかった。

蒲生委員：「ウルトラマラソン」のリポートは、音は改善されていたようだが、私はまだ少し聴き辛いと思った。また、「ゴール1キロくらい。」とリポートがあって、私としては、ゴール直前のリポートを期待していたが、そうではないボランティアのリポートが入ったので、ゴールのところで、どのくらいの人が入って、どういう状況でゴールしてくるのかなど、そういった情報が聴きたかった

「地震」の放送は、直ぐに「マグニチュード5.7」と伝えていて良かった。ただ最初の地震では（テレビや携帯電話から）緊急地震速報が鳴ったので、高山市内で震度4以上を観測したということだと思うが、どのような状況で緊急地震速報が流れ、その際どのような対応をするのかなど、情報を集め把握しておいたほうが良いと思う。日頃から準備をしておけば、直ぐに対応できると思う。

大萱委員長：地震直後の委員会ということで、みなさんには大変重要な意見をいただき、たいへんありがたいと思う。緊急地震速報は震源地が浅くて揺れが強いと役に立たないと言われていて、今回がそのとおりで、全然役立たなかった。今後も地震は、いつかは起こるのでその時リスナーにどう伝えるのか、マニュアルがあると思うので、常にいざというときに備えるようお願いしたい。

今回の聴取した内容以外や今後の放送内容などについて、意見はないか？ヒッツFMでは、今年も（旧市内）小学校のプール開設情報を放送するの  
か？

会社側：放送する。

それから先日行われた「少年の主張コンクール」の様子も夏休み中に一人ずつ取り上げる予定だ。

大萱委員長：子どもたちの話題もいろいろと取り上げれば、盛り上がると思うので、ぜひまたお願いしたい。

他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側：本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

---

6月27日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

---

次回開催日 平成29年8月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）